日本に20代国会議員がいなくなる日

～平成初最年少国会議員誕生のストーリー～

はじめに……2

第1章　20代最年少国会議員が感じた政治……13

コラム（1）　私が考える政治の『定義』　19

コラム（2）　与党と野党、国会議員　23

第2章　等身大の政治の原点……27

第1節　私を導いてくれた2人のおじいちゃん　28

第2節　政治家への志を支えてくれた家族　31
第3節　スポーツで培われた私の基礎　34
第4節　10年越しに再会した朝の挨拶おじさん　40
第5節　葛藤の高校時代　43

第3章　なぜ、政治に挑戦しようと思ったのか……51

第1節　東日本大震災と政治への不信　52
第2節　居場所をなくした自分　56
第3節　現場の熱量が国を変える　60
第4節　復興とは戻すことじゃなく新たな一歩へ進むこと　66
第5節　震災のなごりとUターンの決意　68

第4章　試練……77

第1節　一本の電話が人生を変える　78
第2節　ゼロからのスタート　83
第3節　エレクトリカルパレード大作戦　86
第4節　みんなで考えたこの国の方向性　89
第5節　救世主の登場による絶望　91

第5章　大型戦艦に小舟で挑む……99

第1節　明るく・楽しく・元気よく！　100
第2節　遠慮と上から目線　102
第3節　突然とバズったＳＮＳ　107
第4節　応援弁士続々　110
第5節　想いをカタチに　112

第6節　明け方3時33分の奇跡　115

第6章　しがらみのない政治を追求していく……123

第1節　初の平成生まれ・最年少・20代唯一の国会議員に　124

第2節　地盤・看板・鞄がないことの弊害　127

第3節　はじめての法案提出　132

第4節　はじめての国会質問　134

コラム（3）　半年間で、同じ質問を5回した話　138

第5節　今を変え、未来をつくる　140

おわりに～私の挑戦～……147

第1章　20代最年少国会議員が感じた政治

はじめての選挙。なかなか経験することはない世界です。敢えてこの経験を一言で表すならば、託されることの重みを知ったということです。本当に重いものです。

「はじめての選挙、あなたに託しました」と言ってくれた女子高生。
「いいか、託すぞ」と背中を押してくれた同年代の男性。
「孫のために良い社会を築いてほしいから託す」と涙ながらに訴えてくれたおじいさんやおばあさん。

目の前にあるマイクを軽々しく持ってはいけないことを知りました。一人ひとり、暮らしは違います。一人ひとり、環境は違います。その方々全ての想いを託されることは有難いことであると同時に、本当に私にできるのかと恐怖を感じました。

だからこそ、選挙戦をくぐりぬけてきた人たちが担う政治は本来、尊いはずなのです。

しかし、一般的には違うのではないでしょうか。この本を手に取ってくださる方は、政治に対してどのようなイメージを抱きますか。データの改ざんや隠ぺい、税金の無駄遣いなど、

政治に良いイメージを持つ方など、もはやいるのでしょうか。でも、一方で、みんなどこかおかしいと感じています。このままではいけないと思っています。しかし、どこかで諦め、蓋をしています。

「政府が言うから」と嘆く行政。
「他の企業がしていないから」と迷う企業。
「目の前のことでいっぱいいっぱい」と疲弊する団体。
「どんどん人がいなくなるから仕方ない」と声が小さくなる地域。
「学生の意見は社会に届かない」と諦める学生。

この延長線上に、未来はありません。日本はどんどん行き詰まる一方です。危機を危機と感じない社会、あるいは危機と感じているのに動き出せない社会に道は拓けません。各地を歩いて気付きました。今は荒地でも、少し前まで桑畑だったと。今はシャッター街でも、少し前まで大繁華街だったと。昔はこの川で泳いでいたんだけど……わずか10年、20年で社会は大きく変わります。海外に目を向ければ、この20年で自動車依存社会から、人にも自転車

関心を持っているということです。だからこそ、敢えて結論は出しません。はじめてのチームで数分しか話していないのに、無理に答えを絞っては、かえって本質からずれてしまうからです。賛成も反対もあっていいのです。答えを出しづらい難しい課題こそ、自分の言葉で向き合うことに意味があります。

大人たちはよく、若者は政治に興味がなくけしからん！　と言います。しかし本当は、若者たちが安心して話し合える環境がないだけではないでしょうか。政治に関心がないと簡単に決めつけてしまうことほど、本質とずれた議論はないと思います。私は場をつくることから始めたい。若者と政治という課題に、特効薬などなく、小さな一つひとつの成功体験の積み重ねが、未来をつくると信じています。

大事なことは、今の実践です。今、どれだけやれるかが、5年後、10年後の未来をつくります。託されてきた重みを忘れることなく、一人ひとりの暮らしに責任を持つ政治を、これからも皆さまと一緒に実践していくことが、私の使命です。

Column 1

私が考える政治の『定義』

最年少国会議員として手探りのスタートからもうすぐ1年。全てがはじめてです。迷うことも多いからこそ、ブレない軸が必要です。国と政治を考え実践していく上で、様々な単語が飛び交います。国家、政治、国会、野党、議員……普段ニュースで聞く言葉かもしれません。当選以後、私自身がその立場となり、これらの言葉の意味について、たくさんの先輩議員、同期、各関係者、地元で支えてくれる方々と話し合う中で、見えてきた世界がありました。皆さまと一緒に、それぞれの言葉の『定義』を考えていきたいと思います。もちろん、これは私の感じた世界の話。皆さまと少し違うかもしれません。考える一つのきっかけとなれば嬉しいです。

まずはじめに、『国家』という言葉。近い言葉に国があります。国家と国は言葉は近くても、意味合いは異なります。国は国境線で区切られた領土のことで、国家はそこに成立する政治組織のことと言われます。つまり、国は「主権・領土・国民」の3つを揃えれば認められますが、国家は違います。

この言葉ははじめて出てきたものではなく、福島高校の生徒会長の時に、ずっと使っていた言葉でした。立場も状況もあの頃とは全く違いますが、疲れもピークに達する中、自然と出てきた言葉が同じだったのは、単なる偶然ではないのだと思います。

今、思うのは、政治家という仕事の重みです。一人ひとりの幸せになりたいという願い、一つひとつの現場の涙や苦しみに寄り添い、どれだけ応えられるかが、政治の本質だと思います。

私は、歩みたい。
皆さまと一緒に、歩みたい。
この地から、皆さまと一緒に、歩みたい。

皆さまと一緒に、この地から政治家になりたい。その気持ちでいっぱいでした。

第6節　明け方3時33分の奇跡

投開票日の朝。公職選挙法の関係から、活動はもちろん、ＳＮＳなどをあげることもできません。久しぶりにゆっくり起きた朝でした。あまり外を出歩くこともできず、投票へ行くこと以外は家族と過ごしました。

投票箱が閉まれば、きっとすぐ相手候補の当確が出てしまうのだろう……でも、やれるだけのことは、全力でやりきった！！！　そういう気持ちでした。

夜になり、投票箱が閉まり、いよいよ開票速報が始まりました。こういう時の候補者の動きは、まず自宅待機をしています。そして、当落どちらにせよ、結果が出た段階で、事務所へと移動し、応援してくださった皆さまや、待ってくださっているメディアの皆さまに向け